



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKOROZAWA

2026年7月 通巻 439号

今月のテーマ キックオフ・PR



会長 小林 勉	クラブ会長主題 「繋がり、思いやり、共有」
副会長 金本伸二郎	国際会長 ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク(ノルウェー) 「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」
岡部八千代	アジア太平洋地域会長 ラチャン・マニカーン (タイ)「アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」
書記 宮地輝子	東日本区理事 山下 真 (十勝)「挑戦なくして進化なし」
会計 上山武夫	関東東部部長 廣田光司 (千葉)「地域奉仕活動と YMCA サービスでクラブを元気に」

今月の聖句

各自、いやいやながらではなく、強いられてでもなく、心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。

コリントの信徒への手紙 二 第9章7節

7月 例会

日 時：令和7年7月11日(土)

18:00 ~20:00

会 場：YMCA 所沢センター

司会 金本副会長

1. 開会点鐘 小林会長

2. ワイズソング

3. ワイズの信条

4. 聖書祈り 澁谷副会長

5. 令和7年度 活動方針・活動計画

6. YMCA 報告 太田総主事

7. ワイズ報告 小林会長

8. 誕生・結婚記念

9. 閉会点鐘 小林会長

参加・不参加またお弁当の要・不要を7/5(日)までに所沢クラブLINE、又はTEL(宮地 090-8302-5495)でお知らせください。

会長職1年が過ぎて

小林ベン

この1年地元所沢での例会や YMCA 行事(チャリティラン、フェスティバル、クリスマス会)には顔を出すことが出来ましたが、自身の体調の問題から東日本区大会や関東東部部会など外部での行事への出席はほとんどできず、副会長や大澤さんに”おんぶに抱っこ”で何とかクラブ運営が出来たこと、会員皆様のご協力・ご尽力に感謝しております。

今年参加した行事で私個人としての3大イベントは、八重樫さんの講演「それぞれのカミングアウト「ハンセン病」と関わって28年」、ペシャワール会の映画「荒野に希望の灯をともし(中村哲医師の現地活動35年の軌跡)」とそして川越クラブ主催の例会「地域に根差した幼児教育の創出と学びながらまた学びへ、そして世界へ」講演：滑川浩子先生」でした。

この3つの主題は私個人にとっても多少の繋がりがあるからです。

まず「ハンセン病」との関わりでは、父が東村山市の「国立(ハンセン病)療養所多磨全生園」の職員だったことで、小学1年から中学1年の7年間患者さんの子供が収容されていた「全生園保育所：純真学園」(横浜市)で同じ宿舎で生活を共にしたことや、学生の時数か月全生園の職員寮から学校に通ったこと。(すみません、患者さんとの繋がりはありません)

次いで中村医師の活動を知った58歳の時、JICAが募集していた「パキスタンでのシニア海外協力隊員」に応募したこと。(残念ながら、応募条件の病歴で不採用とな

り止むなく断念)。この時断念した海外で働く場は、3年後に仕事内容は「途上国支援」とはかけ離れた仕事ですが、「天の恵み」という形でオーストラリア・ハワイでの人工衛星施設に関わる業務を10年あまりにわたって従事することが出来ました。

そして3つ目の「地域に根差した教育と世界へ」は、今現在力を注いでいる所沢市内に住む外国人の小学生から高校生(約100人)への学習支援活動(主催団体 ESMY (Educational Support for Multicultural Youth: 青少年多文化学びサポート)での週2回の子供たちとの繋がります。

次年度も5回の卓話が予定されていますので、一般の方達へ積極的に呼びかけして、参加された人たちと「卓話を聴いての共通の思い」を分かち合える機会を持つことが出来ることを期待しています。

ワイズメンズクラブの会員になって4年目でまだまだ至らない会長ですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます、ワイズレポートとさせていただきます。

例会報告 岡部八千代

開催日時 2026年6月13日(土) 18:00~

会場 YMCA 所沢センター

出席者(敬称略) 小林(勉)・渋谷・金本・太田

小林(茂)・小林(恵)・大澤・宮地、岡部

6月の例会は今年度の総括と来年度の活動方針及び事業計画の検討で熱心な協議が行われた

1、今年度の反省

① 5月に上映した「中村哲先生の映画、荒野に灯をともし」

・多数(総数67名)の参加が得られ、参加者からの好評価のアンケート回答、感想が得られた。八重樫氏の講演「ハンセン病」も評判が良かった

② 予定された事業計画で実施できなかった行事(屋外例会)があり、変更

所沢ワイズは屋外例会の実施は難しい

③ 須田さんのコラム掲載が実現できた(不定期)

2、新年度について

① 新年度役員

会長 小林 勉

副会長 金本伸二郎

岡部八千代 会長補佐, 例会司会

会計 上山武夫 書記 宮地輝子

準備会 大澤和子・岡部八千代・宮地輝子

②活動方針

- ・YMCAの行事協力
- ・他クラブ、部、区主催イベントへの参加
- ・月例会の会場設営の分担
- ・会員以外へも呼びかける行事の開催時間は昼間の時間帯にする
- ・所沢ワイズ40周年(2027年)記念行事開催に向けての始動
- ・国際交流活動の具体化に向けての始動

③ 事業計画案

大澤さんの原案を検討したが、未定や検討を要する行事が多く、7月のキックオフで意見を聞きながら決定していく

3、東日本区大会(石巻)の報告

所沢ワイズから参加してくれた渋谷さん、宮地さん、大澤さんからの報告がなされた

今回は、新年度に40周年記念行事の開催、国際交流活動(IBC、DBC)実施への具体化検討の必要性が議論され新年度の所沢ワイズの活動は新たな前進が期待できそうだ

東日本区大会の報告 渋谷実季

6月5日石巻河北総合センターに於いて「瓦礫、命、感謝、次の未来へ」というテーマのもと開催され、320名もの参加者が集いました。当クラブから、大澤、宮地、八重樫、渋谷3人の6人での参加でした。年次代議員会に大澤さん、メネットアワーに私とすみれが出席し、開会式まで販売コーナーに渋谷が立ちました。また、所沢クラブとして全献金達成クラブとして「グランドスラム賞」、ユースサポートファンドの貢献に「理事特別賞」を受賞しています。石巻大会では、3.11の東日本大震災から15年を節目として被災地にまつわる盛り沢山な内容でした。宮城県指定無形民俗文化財「寺崎はねこ踊」やラテンミニコンサートをメインに、晩餐会では、さとう宗幸氏によるステージがありました。また、お茶とクッキーは完売しました。



二日目の日曜礼拝は澁谷が説教、川上直哉先生が司式、私が奏楽を担当し、3人牧師が揃ってのご奉仕でした。100名あまりの参加者があり、緊張していた澁谷ですが分り易い言葉で説教を語り、大迫力な賛美の声に会場が一つとなったように感じられました。礼拝後は、エクスカッションで被災地巡りが行われ、また翌日にはキリンタンツアーが開催されました。



あの3.11の大地震から15年が経ち、絶望的な姿の街並みは、瓦礫から大きな広場となり、建物は震災遺構として保存されていました。何よりも、壊滅的となったホタテの町「雄勝町」で自宅や家族を失った徳水氏が自宅の跡地に薔薇の花を植えたことをきっかけに、少しずつ町の人々の心に希望をもたらす活動を始められました。全くの手作りのローズガーデンを少しずつ大きくされ、今では「雄勝ローズファクトリーガーデン」として人々の憩いの場として移転を経験しつつも活動をされています。「妖精の手仕事」として押し花づくり等女性たちの活



動の場も作られています。メネットアワーでは、押し花の写真立て作りを体験しました。すみれは元気いっぱい走りまわり、愛想をふりまいていました。ステージで歌っているさとう宗幸氏と何度も握手をする強者でした。



■日本 YMCA 同盟協議会での学びと分断への挑戦

6月20日・21日、御殿場にあるYMCA 東山荘にて全国から120名が集う「日本YMCA 同盟協議会」が開催されました。基調講演では、アジア太平洋YMCA 同盟の事業責任者



であるスニータ氏より、YMCAのキリスト教的アイデンティティについてお話いただきました。YMCAは教義を押し付けるのではなく、愛と奉仕の精神を行動で表す団体であること、そして分断された世界の中で心を開いて出会い、思いやりで繋がり、勇気を持って変革する役割があると確認しました。

■「大変で面倒くさい社会」こそがポジティブネット

2日目のパネルディスカッションには関西学院大学の中道先生(神戸Y理事長)、大阪YMCAのユースリーダーであるロシア出身のソクレンコさん、そして総主事の中から私が登壇の機会をいただき、「分断の世界の中で、みつかる。つながる。よくなっていく。」ポジティブネット”の根底に流れるものとは」について語り合いました。私は、障害者施設で働く父の背中や社会福祉の学びから長年考えてきた「共生社会」への問いを投げかけました。ホームレス支援を行う奥田知志先生から以前教えていただいた「国の富の再分配、地域は人の痛みを再分配する役割がある」という言葉の通り、他者の傷を背負い、痛み寄り添うことは本当に大変なことです。しかし、綺



麗事やキラキラした世界だけではなく、この「大変で面倒くさい社会」に身を置き、関わり続けることこそがポジティブネットであり、YMCAの使命ではないかと話しま

した。

今月 7 月 26 日は私の地元で起きた相模原障害者施設殺傷事件から 10 年を迎えます。二度とこのような悲劇が起きないように、亡くなられた方々に心を寄せながら、共に生きる豊かな社会を皆さまと共に作り上げてまいりたいと思います。

東日本区大会に参加して 八重樫(村上)絢子

第 29 回ワイズメンズクラブ国際協会の東日本区大会が宮城県石巻市で開催されました。熱心なお誘いがあり、15 年前に「大震災・大津波・原発事故」の三重災害に遭った石巻の復興の現状と仙台伊達藩の歴史を知りたいと思って、参加しました。ホスト委員会の用意周到な準備と、各地からの皆様の温かいお心遣いをありがたく思いました。

3 : 11 追悼・復興記念コンサートでは、若い方たちの力強い「寺崎はねこ踊」と岸のり子さんのラテンナンバーは圧巻でした。さとう宗幸オン・ステージでは懐かしい演奏を聴きながら交流する時間を過ごすことができました。



エクスカッションは福島ツアーに参加しました。バスの車窓から見る景色は、ほぼ新築の立派な家々が建ち並ぶ一方、空き地が目につきました。被災後 15 年過ぎても帰郷を諦めて放置せざるを得ないままで、人々の暮らしが元に戻る目処が立っていないと知って心が痛みました。

キリシタンの旅では、仙台伊達藩の歴史を辿りました。伊達政宗と徳川家康は浦賀・石巻・メキシコ・マニラを結ぶ定期航路を開拓して貿易をするために、伊達藩が木



造でサン・ファン・パウティスタ号を建造したとの説明には、驚くばかりでした。政宗はソテロ神父・支倉常長を大使として慶長遣欧使節を派遣し、使節団がスペインとパチカンを訪問して 7 年後に帰国すると、江戸幕府の下でキリスト教は禁教時代に入っていました。現在スペインには「ハポン(日本)」と名乗る人々がいて、歴史・文化交流もしているそうです。

伊達藩の壮大な歴史ロマンに心踊らせた一方、大籠キリシタン資料館に展示されていたキリシタン殉教の歴史に驚かされました。布教のために伊達藩に來訪した神父や、製鉄技術を持ち込んだ隠れキリシタンが踏み絵、拷問、磔、断首などによって殉教した凄惨な歴史があったことを初めて知り、長崎や島原だけでなく、東北にも隠れキリシタン殉教の里があったことに衝撃を受けました。

仏教寺院の中で長徳寺は、隠れキリシタンを檀家として匿った遺物が残されていて、キリシタン慰霊碑が建っています。さらに現在、若手の働き手が激減した石巻市は、インドネシアからの技術研修生を受け入れているので、彼らの宗教であるイスラム教のモスクが建てられています。こんなところに石巻の人々の宗教に対する懐の大きさと深さを感じました。

ほんの 1 日のツアーでしたが、仙台伊達藩の歴史の裏表、石巻の人々の厚情に触れられて、中身の濃い大会参加となったことに改めて感謝しています

今後の行事予定 宮地輝子

- 7 月 11 日(土) 7 月例会
キックオフ例会 クラブシンキング
18 : 00 ~
YMCA 所沢センター
例会報告 大澤
- 7 月 25 日(土) 第 1 回関東東部評議会
- 8 月 1 日(土) ブリテン 8 月号発行
一面 岡部

6 月例会		
所沢クラブ	8 名	計 11 名
メネット	1 名	
コメット	1 名	
ゲスト	1 名	

新茶	90g	1,000 円
和紅茶		1,000 円
羊かん	1 袋	500 円
クッキー		150 円